地域づくり人物リレー　第3回　榛名まちづくりネット　芹澤 優 さん

地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動をされている方を取材して、県内には多くの優れた人材がいることを知っていただこうと企画し掲載しております。毎回、次にバトンを渡す人を紹介していただいております。次にバトンが渡されるのは、あなたかもしれません。第３回目は、杉原さんからバトンを渡された芹澤さんにお話を伺いました。

地域づくりのきっかけ

榛名地域は、県の中西部に位置し「山のさびしい湖に…」と歌われた｛湖畔の宿｝のモデル地―榛名湖や竹久夢二が終の地と定めた上毛三山のひとつである榛名山がある。そこで夢二が「榛名山産業美術研究所構想」―｛これを是非、ご覧になってもらいたいものです｝を提唱したのである。豊富な地域資源を活用し、地域住民の支援と賛同を得ながら昭和５年に、地域おこしをしようとした史実があるので、「これはすごい！」、これを継承しない手はないと奮起し、まちづくりをやるぞと今から３０年ほど前に熱き思いで仲間と立ち上げたのである。

もちろん、その前から今につながるいろいろな活動を行なってきた。

榛名南麓は日当たりが良く、梨、梅、桃、プラムなどの果樹類、酪農、養豚、キノコ類等の林産物が育つ肥沃な土地で、みどりと水資源に恵まれている。標高差が１４００mほどある地形にあることから、何でも育つのである。だが、社会的に認知された、これと言った特産品というものがないのである。

一方、観光面においても榛名山という観光資源があり、首都圏からのアクセスも良好であり、多くの歴史的、文化的資源（里見城址－里見氏、鷹留城址―長野氏、榛名神社、大森神社、白岩観音、神山宿、室田宿など）がある。

以上、概観のように、榛名山麓は農山村地域としては都市に近く、他の地域に比べれば地域を活性化させる要因に恵まれている。

このような条件下にある榛名を、我々は積極的に、地域特性を活かしたまちづくりを進めていくことが是非とも必要であると考えた。

しかし、都市に近く、何でも出来るという恵まれた立地条件と歴史的に江戸時代初期からは、侵略されないという安心感が根底にあり、危機感がなくなり活性化させようとする活力を低下させてしまい、これが現代までつながってしまったのである。明治以降、長い歴史の中でこれまで培われてきたシステムを変えられてしまったことが、第一次産業の衰退を招く結果となってしまった。ひいては、農林業の後継者が減少してしまい、郷土保持の思いや危機感がなくなってしまったのである。

肥沃な榛名山麓は、地理的にも、気候的にも恵まれ、素晴らしい自然があり、温暖な気候で大きな災害もなく、あらゆる農林畜産物が育つ環境にあるという恵まれた条件にあるが、社会的ステイタスはまだまだ低いのである。好条件に恵まれていない地域の三分の一の努力をすれば素晴らしい地域になると思い、そこで一つの産業のみを伸ばすのではなく全ての産業をひとくくりにして、異業種をネットワークさせ、一層パワーアップさせれば自然の万物に優しい【理想郷】が創造できると確信したのである。そして、この地域を、自信を持って次世代に引き継ぎたいと思いながら、先を見越したアウトロー的な諸活動を行っているのである。

活動内容

〇水とみどりの保持、保全・活動

農林道整備清掃や里山保持のため、千利休太祖の地・里見郷復興活動として「里見城址」の整備・草刈を定期的に実施している。また、歴史的交流として戦国大名の里見氏ゆかりの房総館山ＮＰＯ、鳥取県倉吉市、土岐市との連携交流活動を行っている（里見氏は榛名の里見が発祥の地で、館山（房総を支配）で隆盛を誇り、江戸初期、１０代「里見忠義」が安房から倉吉に国替えになり、忠義は２９歳で没し、里見氏は１６２２年に断絶したのである）。

〇山野食物の育成

山野の必要性から、行者にんにく、こごみ、ミョウガ、ふき、わさび、たらの芽等の育成を行っている。

〇交流から定住対策活動

遊休農地再興活動として食の生産、芸術活動として陶芸、染色、木工、竹細工等、癒し推進活動として土作

り、作付け・創作体験、収穫祭、情報交換会、交流会、野外発表会、コンサートを行っている。これらの活動拠点として、県産材を活用したミニロッジ『夢現庵』を建立し、ミニロッジの建立促進と同時に定住促進を図っている。ひいては農林業振興にもつながっている。

〇都市と農山漁村交流活動

板橋区との交流（清水ファミリーデー）板橋区と榛名地域は、太古の時代から上下流域水の関係で、深い繋がりがあり、また太平洋戦争時は板橋区の多くの方々が榛名へ疎開されていた。そのような縁から、板橋区との友好交流をより一層深めようと先陣をきって営業を展開し、交流が復活した。

館山では、南総里見まつり、やはたんまちなどにも参加して交流を図っている。

地域づくりへの思い

次世代につなげていくために、この榛名の地を守ろうと必死になってやってきた。ここまで来るには、様々な困難や障がいがあった。それを乗り越えられたのは、夢を同じに持つ仲間がいたからこそ、それから、子どもや孫にすばらしい榛名を引き継ぎたいとの思いがあったからこそできた。我々は、土の地下約３０㎝に生かされている。土を耕し、安全で安心な食物を作り、食すことで土からのエネルギーをもらっている。その大切さに気付いて欲しいと収穫＆交流会を行っている。また、歴史的なつながりのある館山や倉吉、板橋区との交流も大切にしている。我々が今ここにあるのも、過去の歴史があったからこそ。だから、この地でどのような人がいて、どのようなことがあったのか知ることでこれから何をやっていくべきか見えてくる。集まるメンバーもだんだん限られてきたが、できる人ができる時に、できることを続けていくつもりである。

地域づくりをやってきて良かったこと

自分の生地（せいち）を、魅力ある地域にしようと頑張っている人々に巡り会えたこと、自分自身が大自然の中で一生物であることを認識できたこと、巨人軍の監督をやめて「花と緑の農芸財団」の理事長をしていた元気な長島茂雄さんと、自然保持と農芸の事を語り合ったことが良い思いである。

また、「大地の会」で今は亡き藤本敏夫さんらと韓国に訪問したこと。

これからの夢

・やりたいことは、日本、世界のなかで自然と人間が共生している地域を訪問すること。

・夢は老若男女、世代間が交流・創作・生産活動が出来るスペース、ゾーンの構築。

・やらねばならぬことは、水と緑と食の生産地【中山間地域】が荒廃化しつつあるので、これを止めること。そうでないと中産間地域＝山間部は滅びてしまう。山間部が滅びれば都市も滅びることは必至。故に、この活動を地道に行なっているのである。

最後に一言

横糸と縦糸がないと布にはならない。官、民との横軸・縦軸の連携をなくして活力のある、強い布陣〔地域〕は張れないのである。そのため榛名山麓「横軸・縦軸」情報交換会等の活動を実施し、認め合う事業を行っているのである。

好きな言葉

自然のため、世のため、人のため、自分自身のためにやれることをやる。

足るを知る。「知足安分」

感銘を受けた本

仁に生き、義によって戦った上州の名将

「長野業政」野口泰彦著（学陽書房）

榛名山麓の史実を再度、覚醒させ郷土愛を奮い立たせるために。

印象に残る人物

地域づくり団体「未来塾」で開催した文部科学省｛学びあい・支えあい｝地域活性化事業で講演された【近藤亨氏】。

この方は新潟県庁（農業技術指導員）の退職後、ＪＩＣＡに勤務し７０歳で定年、その後、故郷の家や土地を処分して資金を作りＮＧＯ団体を設立。ネパールの不毛の地ムスタンに移住し、農業技術指導や学校建設を続け、世界最高地での水稲栽培に成功。教育の機会の少ない子ども達のために建てた学校は１７校。

８７歳という高齢をものともせずに命を削るように挑み続けている方である。

元公務員にもこういう人がいるということに驚き、感動した。

自分をものに例えると？その理由

アブラムシ・・・どこでも生きられるから～嫌われても…？

行者にんにく・・・胡散臭くて、クセはあるが、いざという時によく効くし美味い？

次にバトンタッチする人

松本立家さん―お隣の地域、安中で地域活動を頑張っている人だから。よろしくね！

★次回は、松本立家さんにお話を伺う予定です。